

## 浸水想定と大阪

『AERA』7日13日号「コロナ禍の災害列島データ」に注目したので抜粋して紹介。写真は1メートル以上浸水する世帯が多い自治体のリスト。地域防災に詳しい山梨大学の秦康範准教授が調べた「市町村浸水人口」（2015年）のなかから、大雨により1メートル以上浸水する世帯数などを自治体ごとに並べたものだ。

この調査は、国土交通省が定めた「洪水浸水想定区域図」と、国勢調査に基づくものだ。この洪水浸水想定区域とは「降雨で氾濫した場合に浸水する危険性が高い場所を示した区域」のことで、「計画規模の降雨（50～150年に一度の大雨）」を想定している。

都市の多くで人口の大半が洪水浸水想定区域内に住んでいることがわかる。実は、洪水浸水想定区域内の世帯数が全国で増加していることが分かった。秦准教授は11年度時点の洪水浸水想定区域の地図データと1995年から2015年の国勢調査結果をもとに、洪水浸水区域内の人口の変化も調べた。すると、同区域内の人口は95年以降一貫して増え続け、20年間で4.4%増の約3540万人。特に世帯数は47都道府県全てで増え、25.2%の大幅増で、約1530万世帯になっていたのだ。秦准教授は、浸水想定世帯数の増加は「核家族化と関係がある」と見る。核家族化によって住宅が必要となるが、古くから人が住んでいた中心市街地を再開発しようとするれば地価は高く権利関係も複雑だ。そのため、それまでは水害の危険で田畑にもならなかった場所、つまり洪水浸水想定区域が開発され家が建てられていった。

都道府県	市区町村	浸水人口 1m以上	浸水世帯数 1m以上	浸水世帯数比 1m以上
埼玉県	戸田市	133289	57586	99%
京都府	久御山町	20719	8394	98%
埼玉県	蕨市	79023	38670	98%
大阪府	大阪市城東区	161269	75618	98%
大阪府	大阪市福島区	63837	33147	97%
徳島県	藍住町	29946	11400	96%
群馬県	明和町	10568	3769	95%
大阪府	大阪市東成区	80483	39775	95%
大阪府	大阪市淀川区	159739	86776	94%
大阪府	大阪市東淀川区	150667	78864	93%
徳島県	北島町	18130	7070	92%
愛知県	名古屋市中村区	123930	61786	92%
大阪府	大阪市旭区	85149	41014	91%
埼玉県	幸手市	48023	18761	90%
大阪府	門真市	115115	51503	89%
愛知県	名古屋市西区	129476	60898	89%
埼玉県	川島町	17061	5914	89%
徳島県	石井町	23057	8446	88%
東京都	墨田区	231760	117774	88%
大阪府	守口市	125649	56788	87%
埼玉県	三郷市	120418	48802	86%
群馬県	板倉町	15497	5617	86%
東京都	足立区	589203	274524	86%
大阪府	大阪市都島区	93413	45691	86%
東京都	荒川区	177809	87661	85%
静岡県	浜松市南区	87451	33348	85%
岐阜県	輪之内町	9047	2860	85%
大阪府	大阪市此花区	51793	23803	85%
埼玉県	行田市	67906	25846	85%
岐阜県	瑞穂市	43711	17423	84%
岐阜県	羽島市	56874	20344	84%
大阪府	大阪市生野区	106235	51691	84%
東京都	葛飾区	382590	174915	84%
大阪府	大阪市鶴見区	86638	36076	84%
茨城県	五霞町	9206	3080	84%

写真の自治体リストのなかに、大阪市の10区が入っている。市内を流れる多くの川の氾濫によるものだろう。私が住んでいる淀川区は、浸水人口15万9739人、浸水世帯数比は94%である。淀川と神崎川に囲まれた地域であり、ハザードマップでも浸水地域が広範にわたる。大阪市廃止・解体の災害リスクをあらためて痛感するデータだ。

(2020年7月14日)